広告

# 元気な九州・東アジアの産業を支えるインフラ

## 格差是正へ高速交通網の整備を　防災・減災対策も重要

**九州の飛躍には何が必要かなどを話し合う西日本リレーシンポジウム「元気な九州・東アジアの産業を支えるインフラ」（西日本魅力発信シンポジウム大分実行委員会主催、大分合同新聞社、全国地方新聞社連合会、共同通信社共催）が7月27日、大分市のホテルで開かれた。矢田俊文・北九州市立大学学長が基調講演、パネルディスカッションでは南北格差や東西格差の是正、港湾・空港・道路網の整備、防災・減災対策、九州圏の広域地方計画などについて熱心に意見交換した。**（コーディネーター・共同通信社　谷口学）

パネルディスカッション

### 「九州の飛躍に向けた将来プラン」

## 広げたい「九州は一つ」の視点

■■■九州には「マザー工場」を

**谷口**　まず急速に発展する東アジアを見据えながら、地理的にも歴史的にもつながりの深い九州が飛躍するために何が必要かを伺いたい。

**安藤**　いずれは韓国、中国に九州を加えた経済圏が世界における自動車産業、あるいはＩＴ産業の相当の部分を占めるようになるだろう。そうなった際に九州には「マザー工場」が置かれることが望ましい。高度な技術は日本に残しておくというか、付加価値の高い製品は日本でつくるということだ。さらに戦略産業の工場を九州全域に広げていくことが必要だが、不十分な交通網がネックになる。財政が厳しいのは分かる。しかし、つくるべきものはつくっておかないと、将来に禍根を残すことになるだろう。

**熊埜御堂**　大分の地でつくった品物を、大分の風とともに九州全域、あるいは日本全国、そして東アジアから世界へと広げていきたいとの思いで事業活動している。工場からは多いときには一日にトラックで百台以上の商品が出荷されるが、やはりインフラの不備を痛感する。国際的に通用する「ハブ的な港」が九州にあれば、そのハブ港へ向け自転車のスポークのように道路網が整備されていれば、海外への商品出荷は格段にやりやすくなる。また大分は麦、鹿児島は芋と原料は分かれているが、焼酎アイランドとしての九州は一体化している。「九州は一つ」との視点が広範な分野に広がれば、九州はもっと力を出せるのではないか。

**松村**　企業だけでなく一般人にとっても、東アジアはより身近に感じるようになっている。お互いに庶民の生活ぶりを知ることで、もっと理解しあえるのではないか。地域の行事の中にもアジアを意識したイベントが増えた。文化を理解するということは、やがて深いきずなをもたらすことになると思うので、こうした動きを大きく育てていきたい。

**小原**　大分と東京、大分と上海はほとんど同じ距離。昔は外国貿易だったものが、今はもう日常的に国内の動きと同じようになっている。目を国内に転じると道路ネットワークはまだ極めて脆弱だ。九州の場合には道路網の南北格差、東西格差がある。新しい国土形成計画ではハード整備についても従来の量的拡大から質的な向上へと転換されることになっているが、九州の場合には足りない部分がまだ随分ある。日本経団連の御手洗会長が「高速道路があれば地方に幾らでも工場が建てられる。十年もたてば地域は過疎化から脱却し再生する」と発言されているのを新聞で見たが、その通りだと思う。

**矢田**　東京での新しい国づくりの議論に参加しているが、対応の決め手が見つからないのが中山間部の集落消滅の問題。九州にも高速道路を整備する計画がある。しかし、それは少なくともメーン道路だ。中山間部や離島へのアクセスまで手が回らない。「心臓や脳の発作を起こした、あるいは大きなけがをして出血がひどいといったときに、どうすればよいのか」と地元の人たちの危機感は強い。こうした人たちの安全・安心を考えると、国づくりの計画を中央任せにするのではなく、もっとみんなが声をあげるべきだ。

■■■経済発展は安全・安心あってこそ

**谷口**　では安全で安心できる生活、あるいは安定した経済活動には何が必要か。

**安藤**　日本は少子高齢化の時代を迎えた。高齢者人口が増えて、十五歳から六十四歳の生産年齢人口が減っていく。九州は二〇〇〇年から既に人口が減っている。そんな状況下で安定した経済活動を維持するには、労働の生産性を上げるしかない。そのためにも高速交通体系と光ファイバーなどの情報通信インフラの整備、この二つはこれからの九州の発展には不可欠だ。

**松村**　安定した経済の発展は、安心・安全な生活があってこそ初めて可能なのではないか。七月の豪雨で九州は大きな被害を受けた。毎年、被害が大きくなっているようで、とても不安だ。もしものときにどの道を使ってどこへ逃げ、だれを頼ればいいのかという基本的な地域コミュニケーションを確立しておくことが重要だ。

**小原**　最近の雨の降り方は少し異常だなという感じがする。短時間に猛烈な雨が降る傾向だ。上流のダムで水をせきとめて、下流で水位を低下させ、またピークが来るのを遅らせ、救出の時間をかせぐといった対策を講じているが、ハード、ソフトを総合的に考えないといけない。安全・安心の確保は費用対効果の考え方に馴染まない面があるが、その辺への理解を求めつつ、厳しい予算の中で、優先順位も考えてできるだけのことをやっていきたい。九州は台風の常襲地帯でもあり、防災や減災対策に全力をあげて取り組んでいく。

■■■地域の自立意識が試される

**谷口**　全国総合開発計画に代わる新しい国づくりの計画（国土形成計画）では、地方が知恵を出して「広域地方計画」をつくることになる。どう対応すべきか。

**矢田**　住民の生活感覚から出てきた要望をたくさん集めて、それをベースに地方自治体や地元経済界、ＮＰＯなどが協議する形が望ましいのではないか。今回の新しい国づくりにはモデルはない。その意味では住民の自立意識が試されているともいえる。

**小原**　国土形成計画は従来のように開発型ではないし、地域陳情型でもない。国と地方が協働してつくろうという初の試みだ。九州という地域構造の中で、一体的にどういう形で補完し連携し合いながらやるのか。九州は一つなのか、一つ一つなのか、一つずつなのか。行政も試されている。

**安藤**　新しい計画は、全国計画とそれぞれの広域地方計画の二本柱で、全国計画には具体的なプロジェクトの名前を一切出すなということのようだ。そうすると具体性のない抽象画のような計画ができてくる。一方、広域地方計画では具体的なことを大いに議論しなさいということなので、経済界としてはこちらに望みをつないでいる。

**熊埜御堂**　広域地方計画では自治体だけでなく、住民の意見も聞いていただけると聞いている。一企業として交通インフラの整備などをお願いしたい。

**松村**　井戸端で会議をするのは得意だが、いざ公の席になると十分に発言できない女性が地方にはまだまだ多い。しかし生活という面では女性がなんといっても主役。女性が気軽に楽しく話をできるような場をつくっていただきたい。

**谷口**　本日は示唆に富んだ発言がたくさん出た。今回で四回目となった西日本リレーシンポジウムは、東京で北側国土交通大臣を迎えて総括シンポジウムを開き終了する予定だ。その際には本日の議論も紹介したい。

北九州市立大学学長
矢田 俊文（やだ としふみ）

（社）九州経済連合会副会長
安藤 昭三（あんどう しょうぞう）

三和酒類㈱代表取締役会長
熊埜御堂 宏實（くまのみどう ひろみ）

NPO法人おおいたリベイラ理事長
松村 紅実子（まつむら くみこ）

九州地方整備局長
小原 恒平（おばら こうへい）

基調講演　東アジアの時代に飛躍する九州

### 九州と日本海側が投資対象に 環黄海と太平洋ベルト地帯を結合

北九州市立大学学長　**矢田俊文**

これまで20年ほど国土計画づくりに携わってきた。5次にわたった全国総合開発計画では国力を高めることに重点を置いてきたが、もう開発という時代ではなくなった。人々が安全・安心に暮らせる住みやすさを考えようというので昨年、名称も変えて国土形成計画法ができた。あらためて地域のあり方、国のあり方、国土のあり方、公共投資のあり方についての指針をつくっていくことになる。各地で国土形成計画をどうつくろうかという動きが活発になっており、本シンポジウムは九州でも議論を始めるための「キックオフ」的な役割も担っていると考える。

九州は太平洋ベルト地帯の西端であると同時に、上海から北京、天津、大連、ソウルを含む「環黄海」経済圏の東端でもある。この2つの経済圏の接合面に九州は位置している。両者が緊密に結び付くようになれば、九州に光が当たることになるだろう。

九州づくりについては、ここ1～2年地方整備局や九州経済産業局、九州経済連合会などがそれぞれ戦略を提起している。これらを集約すると、①成長する東アジアとの交流の強化、②自動車や半導体、農林業や食品工業など牽引産業の振興、③分散配置されている中核都市の機能強化、④多自然居住地域の整備、⑤学術・教育・文化機能の強化、⑥景観・史跡・温泉など観光資源の活用、⑦九州を一体化する交通・通信体系の整備など、7つの課題に整理される。これらの課題を九州の知恵で豊かにしていくことが求められる。

一方で地域の自主・自立の覚悟が試される。例えば九州の魅力を発信する際に「歴史遺産だ」「大自然だ」「温泉だ」と競い合うのはまずい。北海道の「雪」や沖縄の「海」のように九州を一つにまとめるキャッチフレーズを考え、協力し合って九州を万遍なく回る観光を工夫するような「九州は1つ」の認識を共有すべきだ。

西日本魅力発信シンポジウム大分実行委員会

# インフォメーション information

## 大分県では大分駅付近連続立体交差事業を推進しています

県都大分市は、JR大分駅を中心として、その周辺に都市の機能が集積し、発展してきました。しかしながら、中心市街地である大分駅周辺地区の現状は、鉄道により南北に分断され、市街地の総合的発展が妨げられ、また踏切の遮断により交通渋滞が発生するなど、様々な弊害が生じています。

大分駅付近連続立体交差事業は、道路と鉄道を立体交差化することにより、13カ所の踏切を撤去し、都市交通の円滑化や大分駅周辺地域の都心機能強化を行う重要な事業です。

## 鉄道高架工事に伴い、平成22年田室跨線橋を撤去予定です

高架工事に伴い、跨線橋の撤去を順次行っており、今年2月4日には、国道10号の万寿跨線橋の撤去が完了しました。国土交通省でも、国道10号の古国府拡幅工事に取り組んでいます。

また、平成21年から22年にかけては、王子町椎迫線の王子跨線橋、及び国道210号の田室跨線橋を順次撤去し、これらの道路を下に降ろし、鉄道を高架化する工事を実施する予定です。工事期間中は今以上の渋滞が予想されており、大分県渋滞対策協議会「大分駅付近連続立体交差事業交通円滑化検討部会」において渋滞対策の検討を行っています。

## スイスイ環境通勤にご協力いただける企業を募集しています

「交通円滑化検討部会」では、渋滞対策の参考とするため、大分市中心部に通勤する方々を対象としたアンケート調査（6,765人回答）を実施しました。その結果、ソフト施策の中では「時差出勤が効果的」ということがわかりました。そこで、高架工事中の通勤時の渋滞緩和策として、時差出勤に参加していただける大分市内の企業を募集しています。詳しくは下記のホームページをご覧頂くか、事務局までご連絡下さい。

**大分県渋滞対策協議会「大分駅付近連続立体交差事業交通円滑化検討部会」**
国土交通省、大分県、大分市、ＪＲ九州、（社）大分県バス協会、（社）大分県タクシー協会、大分バス（株）、大分交通（株）、大分商工会議所
事務局：大分駅周辺総合整備事務所　TEL：097-545-5677　URL：http://www.pref.oita.jp/17503/

# “九州★未来の図”絵画コンテスト・大募集

**たとえば10年後、みなさんが大人になったとき、九州はどんなふうに変わっているでしょうか。田舎のおばあちゃんの家にあっという間に着いてしまう鉄道や道路、海外にパッと出かけられる空港ができているかもしれません。海や川や山も、今とは違う姿をしているかもしれません。**
**みなさんが想像する「九州★未来の図」を絵にしてみませんか。**

**さあ、あなたの未来の九州を描いてみよう!!**

## 応募について

●応募の資格／九州在住の小学生対象

●応募の形式
①募集部門
（1）小学生 低学年の部（小学校1～3年生対象）　（2）小学生 高学年の部（小学校4～6年生対象）
②四つ切り画用紙サイズ（380mm×540mm）以上。ただし、最大はＡ０サイズ（841mm × 11189mm）。
③クレヨン、水彩など作品の画材は自由。※ただし、コンピュータグラフィックは不可
④一人何点でもＯＫです。※クラスや学校単位等での共同作品も可。ただし、入賞は一人一点とします。
⑤Ａ４サイズの用紙（もしくはチラシ裏面の応募用紙）に、部門・作品の題名・作品のＰＲ文・郵便番号・住所・氏名・年齢・電話番号・在籍する学校名・学年を明記して作品の裏面にはりつけてください。共同作品の場合には、代表者名、全員の名前も明記し、応募用紙の近くにはりつけてください。

●募集期間
応募締切：2006年9月8日（金）当日必着

## 作品の表彰と賞品

各部門ごとに、
【最優秀賞】1点／賞状及び副賞（旅行券5万円分）
【優秀賞】7点（各県1点）／賞状及び副賞（図書カード1万円分）
【各部門を対象に特別賞】数点／賞状及び副賞（文具券1万円分）

**お子さまの夏休みの宿題にいかがですか?**

●入賞作品の発表
2006年9月中旬を予定。入賞者ご本人に通知します。
入賞作品は、九州地方整備局または各事務所などで展示します。
※応募作品については広くみなさんに紹介するため、ホームページや小冊子等で作品および応募者名を公表することも予定しています。

注意事項
①応募作品は応募者が作成した未発表のオリジナル作品に限ります。
※応募作品に第三者の著作物を使用する場合は、必ず権利者の承諾を得たうえでご応募ください。※受賞作品発表後でも当該受賞作品が既に発表済みまたはオリジナルではない等の事実が判明した場合、または当該受賞作品が未発表オリジナル作品であることについて主催者が疑義ありと判断した場合は、受賞を取り消させていただきます。
②応募作品は返却いたしません。
③入賞作品の著作権は主催者に帰属いたします。
※応募者の個人情報は、適切な方法にて管理し、応募に関する結果連絡、賞品の送付等本コンテスト実施の目的にのみ利用させていただきます。

**応募先・お問い合わせ先**
**大分合同新聞社 企画推進部「九州★未来の図」絵画コンテスト事務局**
〒870-8605 大分市府内町3-9-15
●お問い合わせ TEL 0120-556-879（平日9:30～18:00）FAX 097-538-9682

主催：国土交通省九州地方整備局、全国地方新聞社連合会
後援：大分合同新聞社、西日本新聞社、佐賀新聞社、長崎新聞社、熊本日日新聞社、宮崎日日新聞社、南日本新聞社、共同通信社

みんなでつくる国土計画　国土交通省
http://www.kokudokeikaku.go.jp/